

## 校名：熊本大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒860-0846 熊本市中央区城東町5-9

電話番号：096-352-3483

記載日： 28年 5月20日

記載者：原山照美

記載者役職： 副園長

### 貴校の校風、おおまかな特色について：

※ 「附属幼稚園へのいざない」から抜粋（熊本大学教育学部附属幼稚園作成）  
本園の保育は「幼児の遊び」から発します。

(1) 幼児の生活は遊び。自由感にあふれた教育的意図がいっぱい詰まった幼稚園です。

遊びを通して伸びる諸能力（学び）を大切にし、そのためにふさわしい環境の構成を行い教育課程を展開します。園児たちは本園での遊びを中心としたくらしを通して、自立性や社会性、自主性や自発性、意欲、規範意識や思いやり、集中力や創造力・表現力・思考力などを身につけていきます。

(2) 基本的な生活習慣（生活に必要なこと）も育成します。

子どもたちはみんなと一緒に生活を共にすることで、社会生活における望ましい習慣や態度を身に付けていくようになります。

(3) 幼児が遊びたい自然がいっぱいです。

市の中心部にありながら、広い敷地をもち、子どもたちが遊ぶ、水・土・砂・草木・花・実などがいっぱいです。

(4) 遊びから発展して・・・

子どもたちは、園内のあちらこちらで自由に自発的に遊んでいます。遊びから発展して、運動会や表現活動発表会など、みんなで一緒に行う活動ができていきます。

(5) 小学校での学習意欲へとつながります。

幼児が、遊びを通して積極的に物事にかかわることは、興味や関心を高め追求心や探求心を旺盛にし、学ぶことへの意欲へとつながります。

(6) 家庭の教育力を支援します。

① 幼児期の特性の研究・理解から、幼児期に最もふさわしい教育内容を、保育に最も適した保育時間の中で行っています。

② 保護者のみなさまには、園生活と諸行事や研修を通して、幼児期の子どもの理解を深め幼児との接し方を学んでいただくとともに、PTA活動等を通して保護者自らの教育力も高めています。

### 貴校の卒業生の活躍状況について：

・ 追跡調査はしていないが、附属小中学校からの情報で把握している。

### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

・ 追跡調査はしていないが、教育委員会等からの情報を得ている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

(1) 子育て支援の充実・子育て支援のセンター的役割

①預かり保育の実施（H28 8回実施）

- ・保護者の研修会や保護者会で実施
- 子どもの心の安定が、保護者の安心となり研修効果を高めている。
- 年間のべ約400人が利用

②夏休みの園庭解放（7/21～8/28 土祝日、8/13、14日を除く）

- ・地域に対し、砂場や噴水プールを開放
- 安心安全な遊び場所として、未就園児保護者にも好評
- のべ約180人が利用

③保育後の園庭解放の延長、卒園前の年長児の保育時間の延長

- ・保育後の園庭解放を4時まで延長
- ・年長児は2月半ばから卒園まで、保育時間を14時30分まで延長

④相談活動や学びの場の設定

- ・付き添い保育
- ・子育てトークの実施（バースデイミーティングの工夫）
- ・熊本市と連携し、食育相談会や弁当づくり教室を実施  
（父母の会やパパママほっとタイムにて）

⑤オープン参観日

- ・行事への保護者参加を増やし自由参観日を設定する等、日常を公開
- ・誕生会は誕生月の保護者が自由に参観可能
- ・終業式への自由参観可能

(2) 幼小連携と、小学校へのアプローチカリキュラムの作成

- ・研究テーマ「学びに向かう教育課程の創造」に沿った実践研究
- ・幼稚園後期から小学校への「アプローチカリキュラム」がほぼ完成
- ・幼稚園からなめらかな接続のための「スタートカリキュラム」を附小と合同で試作予定。

(3) 大学との連携を強化し、地域交流・地域貢献

①大学・四附属連携の取組

- ・父母の会における大学連携

- |                    |          |                 |
|--------------------|----------|-----------------|
| 5月：理科（教育学部教授）      | 田中 均 園長  | 「本当に怖い話～熊本の地震～」 |
| 9月：保健体育科（教育学部教授）   | 附属特支学校校長 | 坂下 玲子先生 「親子ダンス」 |
| 10月：技術科（教育学部准教授）   | 引治 力男先生  | 「親子ロボット教室」      |
| 10月：理科（教育学部教授）     | 田中 均園長   | 「年齢別 親子実験教室」    |
| 11月：音楽科（教育学部シニア教授） | 吉永 誠吾先生  | 「音楽鑑賞会」（学生3人）   |
| 附属中学校              | 宮本 哲也副校長 | 「附中の教育」         |
| 附属小学校              | 黒川 哲治副校長 | 「附小の教育」         |
| 1月：発達心理（教育学部准教授）   | 高崎 文子先生  | 「やる気の動機付け」      |
| 2月：附属特支学校          | 牛野 忠夫副校長 | 「インクルーシブ教育」     |

- 年長附属小学校1年生の交流授業を年三回、学期毎に実施
- 保護者の附小学校訪問や授業参観を実施
- 中学生の職場体験受け入れ

## ②地域交流、地域貢献

- 6月：ビブレス広場にて熊本市人権フェスティバルに年長全員参加
- 12月：県立劇場にて、特支50周年式典で年中・年少希望者発表
- 2月：県立劇場にて、熊本県学校ダンス発表会にて年中全員発表
- 12月：NHK 歳末助け合い運動に参加
- 10月：全幼Pプレ熊本大会（H28全国大会）にて本PTAが総務担当、司会、ピアノ演奏等協力
- 11月熊本市立城東小学校との連携として、保護者の学校訪問、授業参観
- 11月：全国幼児教育経営研修会熊本大会を開催、事務局として運営

## 地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

- 幼小連携の視点から、小学校へのアプローチカリキュラムの作成し、地域の教育の「モデル園」となっている。（再掲）
  - 研究テーマ「学びに向かう教育課程の創造」に沿った実践研究
  - 幼稚園後期から小学校への「アプローチカリキュラム」がほぼ完成
  - 幼稚園からなめらかな接続のための「スタートカリキュラム」を附小と合同で試作予定。
- 地域の教員の資質・能力の向上への貢献
  - 全国の附属園の研究発表会への参加や園訪問を積極的に実施し、全国の情報を県や市の研修会等で情報を発信
  - 研究会等の運営の中心的役割（会場の提供も含めて）

## 附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

附属学校園は、国立大学の附属学校である特性を活かし、大学・学部の持つ人的資源を活用しながら、地域へ貢献していくことが重要である。

本園は、大学との連携強化という点から、保護者・園児・職員を対象に、大学の専門家を召還した講演や講話、ワークショップ等を行っている。国立大学は国と直接つながっているため、国の施策等の情報をいち早く得ることができ、そのことが園の研究にも生かされ、研究発表会等を通して、地域の教育の「モデル園」として、地域の教員の資質・能力の向上や教育活動の推進に寄与している。

※本園の実績（再掲）

• 大学との連携

- 5月：理科（教育学部教授） 田中 均 園長 「本当に怖い話～熊本の地震～」
- 9月：保健体育科（教育学部教授） 附属特支学校校長 坂下 玲子先生 「親子ダンス」
- 10月：技術科（教育学部准教授） 引治 力男先生 「親子ロボット教室」
- 10月：理科（教育学部教授） 田中 均園長 「年齢別 親子実験教室」
- 11月：音楽科（教育学部教授） 吉永 誠吾先生 「音楽鑑賞会」（学生3人）
- 附属中学校 宮本 哲也副校長「附中の教育」
- 附属小学校 黒川 哲治副校長「附小の教育」
- 1月：発達心理（教育学部准教授） 高崎 文子先生 「やる気の動機付け」
- 2月：附属特支学校 牛野 忠夫副校長「インクルーシブ教育」